

150年にわたるコニカミノルタのあゆみ

1873年の創業から150年、当社はいつの時代もお客様や社会の課題解決に貢献するために、「見えないものをみえる化する」イメージングの力で新たな価値を創出してきました。これからも、人々や社会の持続的成長に貢献し続けます。

1873～1959年

1960～1979年

1980～2002年

2003年～現在

日本のカメラ・写真フィルムの基礎を築く



1873年に杉浦六三郎が「小西屋六兵衛店」で写真材料の取り扱いを開始し(コニカの前身)、1928年に田嶋一雄が「日独写真機商店」を創業(ミノルタの前身)。両社は、欧州の先進的な技術を学びながら、自らの手で開発、生産する能力を高め、製造業としての基盤を築いていきました。



国産初のブランド付カメラ



国産初のカラーフィルム

カメラ、フィルムの技術をもとに複写機事業を世界に展開



両社は世界初の機能を搭載した数々の製品を発売。また、カラーテレビの放送開始にともない、ディスプレイの性能を測定するTVカラーアナライザーの開発に着手。さらに、企業でのオフィスオートメーションが広がるなか、カメラで培った技術をもとに複写機の開発も開始し事業を拡大していきました。



当社初の複写機



テレビ局との対話から生まれたTVカラーアナライザー

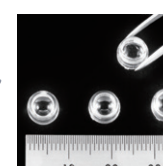
デジタル化に挑み、人々の暮らしと働き方に革新を



情報通信技術やデジタル技術の発展にあわせて、複写機を多機能型のデジタルカラー複合機へと進化させるとともに、家庭用のCD・DVD向けの光ディスク用ピックアップレンズや、液晶TV向けの偏光板用TACフィルムの事業を開始。長年培った光学や材料などの画像技術で、時代の変化にともなう機会を捉え、新事業を切り拓いていきました。



当社初のデジタルフルカラー複写機



光ディスク用ピックアップレンズ

経営理念「新しい価値の創造」のもとコニカミノルタが誕生



2003年、イメージングという同じルーツを持つコニカとミノルタが経営統合。両社の強みを融合させ、成長領域でトップポジションを確立するジャンルトップ戦略を推進してきました。2030年の社会課題を見据え、世界中のさまざまな業種・業態の現場を支える方々に寄り添いながら、お客様企業や社会課題の解決に貢献しています。



液晶TV用TACフィルム



当社初のカセット型デジタルX線撮影装置

150年は、 私たちのスタートです。

私たちのイメージング イノベーションの旅は、
多様な視点から見て新しい価値を創造するために、150年前に始まりました。
そして私たちは社会のためにイノベーションを起こしてきました。
この同じ思いが、今も私たちを動かし続けています。

150年を迎え、すべての関係者への感謝の気持ちを言い尽くすことはできません。
より明るい未来をつくる私たちの決意は、これまで以上に強まっています。
これまでの長い道のりを胸に、
人々と社会にイメージングで貢献する (Imaging to the People) ために、
私たちにできることは無限です。

150年は、私たちのスタートです。

